

肥満が細菌性膣症の発症リスクを高める

西原 卓志^{1,2}、門上 大祐¹、中岡 義晴¹、福田 愛作²、森本 義晴³

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

³医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】細菌性膣症 (BV) は、膣内の *Lactobacillus* が減少し好気性菌や嫌気性菌が増殖した病的状態であり、肥満で有病率が高いという報告もある。そこで当院における肥満と細菌性膣症の発症との関連について後方視的に調査を行った。

【方法】《検討 1》 当院で 2020 年 1 月から 2025 年 5 月までに、膣分泌物のグラム染色標本を用い Nugent score を測定した 5,568 症例を BMI によって分類し、BV の有無と肥満度との関連を調査した。肥満度の分類は日本肥満学会の肥満度分類をもとに、低体重群 (BMI < 18.5)、普通体重群 (18.5 ≤ BMI < 25.0)、肥満 (1 度) 群 (25.0 ≤ BMI < 30.0)、肥満 (2 度) 群 (30.0 ≤ BMI < 35.0)、高度肥満群 (35.0 ≤ BMI) で解析を行った。《検討 2》 BV と診断され、メトロニダゾール内服錠 750mg/日、膣錠 250mg/日を 7 日間投与、投与終了翌日よりプロバイオティクスを 7 日間経膣投与し再検査を行った 357 例に対しその治療結果と肥満度との関連を調査した。

【結果】《検討 1》 細菌性膣症と診断された割合は、普通体重群 (n=4,029) の 11.3% に対し、低体重群 (n=801) で 10.6%、肥満 (1 度) 群 (n=572) で 12.8%、肥満 (2 度) 群 (n=133) で 21.1%、高度肥満群 (n=33) で 33.3% と、肥満度が高いほど増加する傾向にあった。また、平均 Nugent score も同様に、普通体重群の 2.58 に対し、低体重群で 2.73、肥満 (1 度) 群で 2.78、肥満 (2 度) 群で 3.27、高度肥満群で 3.64 と高い傾向を示した。普通体重を標準としたオッズ比は、低体重群で 0.94 (p=0.07)、肥満 (1 度) 群で 1.15 (p=0.48)、肥満 (2 度) 群で 2.10 (p<0.01)、高度肥満群で 3.94 (p<0.01) と、肥満 (2 度) 以上で有意にオッズ比が高値となった。《検討 2》 再検査の結果は、各肥満度間での差はみられなかった。

【考察】肥満を有する場合、普通体重と比較して BV の発症リスクが高まることが示唆された。肥満の有無による BV 治療効果に差はみられなかったものの、BV の再発率は決して低くないことから、肥満を有する患者においては、食事療法や運動療法など様々なアプローチを組み合わせた対策を検討する必要があると考えられる。